

ミニレター
あぜみち通信

* * * * *

平成19年8月1日

80号

編集・発行：愛知県農業会議

愛知県担い手育成総合支援協議会の平成19年度総会を開催

愛知県担い手育成総合支援協議会は、7月2日白壁庁舎において通常総会を開催し、経営管理能力向上研修を県内各地で14回開催などの、平成18年度の事業報告及び決算が審議され、原案通り可決承認されました。

また、全国優良農業者表彰事業で、平成7年度認定の認定農業者、杉村義仁氏（愛西市）が栄えある農林水産大臣賞を受賞されたことなども報告され、平成19年度においても、関係機関・団体が連携を密にして、担い手の育成・確保と経営能力向上に向けた各地域の取組を積極的に支援すること、とりわけ地域担い手育成総合支援協議会が未設置の市町村に対して、関係機関が一体となって設立推進を図ることが確認されました。

今後、3月の総会で承認された事業計画に則り、関係機関・団体の連携の下に担い手の育成・確保、特に地域担い手育成総合支援協議会が未組織の地域への働きかけに、取り組んで参りますので、よろしくをお願いします。

全国農業新聞普及推進重点農業委員会担当国会議を開催

全国農業新聞普及推進農業委員会担当国会議を、7月4日西三河総合庁舎で開催しました。

全国農業会議所新聞業務部の碓氷晴之氏から、「農業委員会系統組織を巡る情勢と情報事業の取り組み」について講演を頂いた後、全国農業新聞及び全国農業図書を活用運動の展開と普及拡大について、活発な意見交換を行いました。

出席者からは、1部の増部にも多大な努力が必要なこと、一度ご理解を頂いても記事の内容等で、厳しい意見も多いことなど、現場でのご苦勞を披瀝頂きました。

本年は3月から5月にかけて185部の減少となっていた全国農業新聞の購読部数も6月及び7月とも13部の増部となり3,414部となりました。今後とも皆さんのご協力をお願いします。

団塊の世代定年就農相談会が開催されました

愛知県は7月21日、岡崎市の県立農業大学校において、第1回目の「団塊の世代定年就農相談会」（新規事業）が開催されました。

相談会には6名の相談者が訪れ、県農業振興課、同農林水産事務所、農業会議等の担当者がそれぞれ面談を受けました。

常任会議員会議（7月）の審議状況

知事諮問案件等を審議するための常任会議員会議が7月17日開催され、農地法第4条に基づく転用事案44件28,727平方 m^2 、及び第5条に基づく転用事案435件390,613平方 m^2 が審議され、いずれも許可して差し支えない旨答申することが議決されました。

また、土地区画整理法第136条の規定に基づく豊田市長からの諮問、「豊田都市計画事業寺部地区」（総面積20.9 ha 、農地255筆99,184平方 m^2 ）についても、原案通りで了とすることが議決されました。

会議終了後事務局から、全国農業新聞及びあぜみち通信を材料に、最近における市町村農業委員会の活動状況、6月1日に実施した優良農業委員会現地調査（国分寺市農業委員会）の概要、首都圏で進められている「体験農園を通じた団塊の世代の農的暮らしの促進事業」などについて説明をしました。

愛知県農業法人経営者協会の通常総会・10周年記念大会が開催されました

愛知県農業法人経営者協会（会長：西尾清二郎氏）は7月4日、名古屋市中村区で平成19年度通常総会及び10周年記念大会が開催されました。

総会では、第10年度（18年度）の事業報告及び決算並びに、10周年を記念しての海外研修などの実施を含めた第11年度（19年度）の事業計画及び予算が承認されました。

引き続いての10周年記念大会では、記念講演の後、経過報告と功労者表彰が行われ、歴代の会長及び設立発起人7名に対して、愛知県農農業協同組合中央会の野村弘会長から感謝状及び記念品が贈られました。

18年8月現在の愛知県内の農業法人は、農事組合法人66法人、会社形態の法人427人とされており、この内52法人が協会に加盟しておられます。

愛知農林統計協会総会が開催されました

愛知農林統計協会総会（会長：野村弘氏）は7月4日、名古屋市中区で平成19年度の定期総会が開催され、18年度の事業報告及び決算並びに19年度の事業計画及び収支予算が原案どおり承認されました。

役員改選では、役員総数24名のうち保留が20名、新任は4名で選任されました。新しく選任された方は、副会長理事に加藤和年氏（設楽町長）、理事に加藤功氏（知多市長）、村松幹彦氏（森林組合連合会代表理事会長）、石黒靖明氏（岩倉市長）、顧問に永田清氏（県農林水産部長）が就任されました。

稲作経営者会議の新会長に小川嘉吉氏が選出されました

愛知県稲作経営者会議（会長：伊藤善彦氏）の総会が、7月9日クラウンホテルで開催され、平成18年度の事業報告及び決算並びに19年度の事業計画及び収支予算が承認され、役員の改選では、伊藤善彦会長（稲沢市）に代わって小川嘉吉氏（扶桑町）が新会長に、副会長のうち近藤文敏氏（長久手町）に代わって小関春男氏（甚目寺町）が就任されました。（林茂樹副会長（安城市）は留任）

平成18年度は、例年の事業の他、農林水産省幹部や農林漁業金融公庫総裁との懇談、食育についての県担当職員との懇談など、積極的な事業が進められました。

19年度においても、品目横断的経営安定対策への適切な対応など、地域の担い手としての期待に応え新時代に勝ち残る稲作経営を確立するための事業を展開することが議決されました。

総会の後、販売促進コンサルタントの金田晃氏の「農産物の直売を活性化する具体策」と題した講演、東海農政局から農作業の工程管理（GAP）について、農林漁業金融公庫から新たな融資制度について説明があり、講演終了後は、来賓として出席された東海農政局栗本次長・片山生産経営流通部長、愛知県農林水産部森技監、農林漁業金融公庫小泉名古屋支店長などや講師を囲み、情報交換会が催されました。

講演の概要は、全国農業会議所発行の「プロに学ぶ農産物販売のワザ〔技〕と極意（定価1,000円）」に盛り込まれています。

全国稲作経営者現地研究会が開催されました

全国稲作経営者現地研究会は、7月18・19日の両日、香川県琴平町で、全国から約300名が参加して開催され、本県からは、稲作経営者会議の新旧会長を始め10名が参加しました。

研究会は、「今後の稲作経営と『担い手』の役割」と題して放送大学の嘉田良平教授による記念講演と「稲作経営の発展と地域のつながり」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

第56回全国農業コンクールが開催されました

第56回の全国農業コンクールが、「新しい農の時代をひらく」をキャッチフレーズに、7月19・20日の日程で、豊橋市及び田原市を会場に開催されました。

全国農業コンクールは、毎日新聞社と関係都道府県との共催により、全国各地を巡回して開催され、農業経営面や生活面で高い収益や快適な暮らしを実現し地域に大きな影響を与えている農業者が実績を発表し、これを広く紹介・普及する目的で実施されているもので、愛知県では第3回以来53年ぶりに開催されました。

実績発表会では、書類審査及び現地調査を経た県内の3事例を始め20事例が、一人12分の持ち時間を目一杯に使った熱の籠もった発表が行われましたが、20事例中、組合の組織活動が2事例、有限会社等法人経営が16事例で、個別経営は2事例と農業経営の法人化が進んでいることをうかがわせました。

何れも家族経営から出発しその殻から大幅に飛び出した経営が多く、厳しい環境の中で、安全や環境等に配慮し先駆的に創意工夫をこらし、その成果を周囲に普及して、地域に活力を与えて、信望も一身に集めている事例ばかりでした。

審査の結果、愛知県から発表した「日本一のとん茶産地を目指す～西尾市茶業組合」、「鉢物業界の『トヨタ』をめざす～(有)皿井園芸」及び「高収益複合経営で水田農業の新時代に挑戦～農事組合法人和泉営農組合」の3事例を含む10事例が農林水産大臣賞に輝き、そのうち、高付加価値卵を核とした多角経営の確立と地域の活性化への貢献が評価された、熊本県菊池市の(有)ココファームが最高賞のグランプリを受けました。

農業機械を利用した経営改善の優秀事例に贈られる「クボタ賞」については、愛知県農業総合試験場が開発したV溝直播を活用した稲作の低コスト化への取組が評価された「和泉営農組合」と(有)ベジタブルセンターU・F・Oが受賞しました。

海部支部の農業委員・事務局職員研修会を開催

7月27日津島市文化会館において、愛知県農業会議海部支部と海部地区農業委員会協議会の共催によって、農業委員・事務局職員研修会を開催しました。

研修会には、230名が参加し、農業会議からの情勢報告と「農地と担い手を守り活かす運動の推進について」の説明の後、福島大学行政政策学類助教授の岩崎由美子氏の「農業委員会活動に期待する」講演を頂きました。

講師の岩崎助教授は「農村の女性起業家たち」、「成功する農村女性起業」（家の光協会）の著書をお持ちで、ゼミの学生の農作業体験や民泊を通じた交流活動を通じて得られた農業委員会への期待や、各種の研究会の委員として感じられた農業委員会批判の根底にあるものを、判り易くお話を頂きました。

愛知県担い手育成総合支援協議会スペシャリスト会議を開催

愛知県担い手育成総合支援協議会では、平成19年度第1回のスペシャリスト会議を開催しました。

会議には、平成19年度の愛知県担い手育成総合支援協議会スペシャリストとして委嘱した、公認会計士・税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、及び弁護士の20名（延べ22名）の内11名が出席され、県農林水産部農林政策課久野主幹から「日本及び愛知県の農業の現状と今後の方向」、同農業振興課の日比野主幹から「認定農業者制度と担い手育成総合支援協議会の役割」の説明を頂いた他、協議会の19年度事業計画を説明して、意見交換を行いました。

意見交換の中では、「農家の皆さんも多忙になっており、経営管理能力向上研修などは、出荷の無い日を選ぶ等キメ細かい配慮をしないと、本当に受講して欲しい人の出席が確保できない」、「具体的に相談事項を把握している農業改良普及課と連携が必要」、「出席者や相談者の概要が判らないと、適切なアドバイスが難しい」などの意見が出されました。

今後、日程など、関係のみなさんと調整の上、経営管理能力向上研修、経営相談会を開催します。ご協力をお願いします。

耕作放棄地の実態調査が実施されます

2005年センサスによれば、全国の耕作放棄地は約39万[㌦]（愛知県約9千[㌦]）、農業振興地域内の農用地域内だけでも約15万3千[㌦]（愛知県2千5百[㌦]）に及ぶなど、地域農業に大きな影響を及ぼすことが懸念されることから、農林水産省では、今後の発生要因の分析や対策検討の基礎資料とするため、各市町村農業委員会の協力を得て、耕作放棄地の分布状況を調査することとしました。

原則的には、農業委員会等の農地地図情報システムの電子地図データを活用し、電子化されていない農業委員会等については、各農業委員会で既に農地パトロールによって整備されている地図があればそれを活用し、無い場合には地方農政局が用意した地図に分布状況を示す形で、耕作放棄地の位置及び面積を把握するとしています。

この調査の説明会を、8月17日午後3時30分から白壁庁舎で開催します。各市町村農業委員会の担当者の説明会への出席と調査へのご協力をお願いします。

「ふるさと農林水産フェア秋」が開催されます

愛知県及び中日新聞社等の主催による「ふるさと農林水産フェア秋」が、10月5日(金)から7日(日)の3日間、名古屋市千種区の吹上ホールで開催されます。

フェアには、元気な愛知の農業及び食品産業から、生産者・企業・団体が、安全・新鮮な農産物・加工品を持ち寄り、消費者と対話しながら販売するブースが約180設置される他、愛知の農林水産物や食育を紹介する情報コーナー、イケメン料理人コウケンテツさんや元グランパスエイトの望月重良さんなどのステージイベントが予定されています。

「地産地消」と「食育」を推進するこのイベントは、各地の特色ある農産物を紹介するとともに、他の地域の食への取組を知る良い機会ですので、多くの方の出席と参観をおすすめします。

なお、入場券(当日600円、500円分のお買い物券付き1,000円)の前売り(お買い物券付き800円)が8月5日から始まり、名鉄観光サービス、主要プレイガイド、チケットぴあ、主なコンビニ、中日新聞販売店などで販売されます。

定年後に就農を目指す方のためのWebページが開設されました

『第2の人生は農あるくらしでいきましょう!』愛知県では、定年後、新たに農業を始める方のためのWebページを立ち上げました。7月13日から開設されたWebページでは、「販売を目指す農業」から「楽しみ生きがいの趣味の農業」まで営農スタイルにあった研修情報や実践者の成功事例集、市民農園リスト等のお役立ち情報が満載です。

Webページの構成は、研修情報、農地情報、経営モデル、市民農園情報、成功事例、相談窓口、Q&Aで、WebページのURLは次のとおりです。

<http://www.pref.aichi.jp/chikusan/secondlife/index.html>

経営構造対策事業推進研修会を開催

愛知県経営構造対策推進協議会では、7月6日蒲郡市役所で平成19年度の経営構造対策事業推進研修会を開催しました。

今年度は、来年度に向けて経営構造対策事業に取り組むための検討を進めている蒲郡市及びJA蒲郡市の職員を主な対象に、財団法人都市農山漁村活性化交流機構(まちむら機構)の原田明氏を講師として招き、経営構造対策の計画・実施・評価を進める上での「事業効果フロー図の作成」の手法について研修を行いました。

事業効果のフロー図は、「内部環境・外部環境」を整理し、「課題・ニーズ」-「目的・目標」-「事業実施」-「直接効果」-「波及効果」を洗い出して、要素の連結として図示することによって、事業の効率的な実施と実施後の効果測定を確実なものにするための手法です。

今回の研修は、具体的に計画策定を進めつつある地区を対象としたこともあって、地区のプラス要因・マイナス要因を洗い出すことが出来るとともに、課題設定・直接間接の効果予測、効果検討からの目的見直しを行うなど、中身の濃い研修となりました。

愛知県経営構造対策推進協議会では、事業実施計画を持っておられる地域の要望にこたえて、効果的な研修会を実施して参ります。ご活用下さい。

平成18年の新規就農者は129人

愛知県農林水産部農業経営課は、平成18年度の新規就農者についての調査結果をとりまとめました。これによると、新規学卒者40名（前年68名）、Uターン青年69（79）、新規参入20（24）名で、何れも前年を下回り、過去10年間で最低となりました。

愛花協だより（知事お祝いメッセージ、会長色紙贈呈）

美浜町 斉藤大士さん・加良子さん（7月16日挙式）

田原市 中神英克さん・絵奈さん（7月22日挙式）

ご結婚おめでとうございます。一層のご活躍とご多幸を祈ります。

今後の主な行事予定

- 8月2日（木） 男女共同参画推進会議（中区）
- 8月2日（木）3日（金） 農業者年金加入推進部長特別研修会（岐阜市）
- 8月6日（月） 知多支部農業委員・事務局職員研修会（半田市）
- 8月7日（火） 認定農業者組織連絡会議（白壁庁舎）
- 8月7日（火） 賛助団体会議（白壁庁舎）
- 8月9日（木） 西三河、豊田加茂支部農業委員・事務局職員研修会（安城市）
- 8月10日（金） 尾張支部農業委員・事務局職員研修会（稲沢市）
- 8月16日（木） 常任会議員会議（白壁庁舎）
- 8月17日（金） 農業委員会事務研究会総会（白壁庁舎）
- 8月17日（金） 耕作放棄地実態調査説明会（白壁庁舎）
- 8月21日（火） 愛知県農家花嫁花婿対策連絡協議会運営会議（白壁庁舎）
- 8月30日（木） 平成19年度第1回総会（水産会館）
- 9月3日（月） 新城設楽、東三河支部農業委員・事務局職員研修会（豊川市）

あとがき

平成18年度の全国優良農業者表彰事業で、栄えある農林水産大臣賞を受賞された杉村義仁氏の受賞祝賀会が、7月29日名古屋市中村区のホールで開催されました。

祝賀会には、杉村氏の師中野幸雄氏、あいち海部農協の日永熙組合長、元立田村長の井桁諭氏の呼びかけに応えた県内の稲作に関する関係機関・団体関係者や取引関係者ら170名余りが出席し、和気藹々の内に氏の栄誉を讃え喜び合いました。

氏の受彰の最大のポイントは、消費者の求める安全で高品質なコメ作りに向けた有機JASの認証取得や、規模拡大に応じた技術の開発・確立並びに食育の推進など地域活動の展開であると、全国審査委員会の牛島正美氏から経過報告がありましたが、コメに限らず、安全・安心と安価それに地域社会の安定を念頭に置いた農業の実践が必要なことを一同再確認した会合となりました。

品目横断的経営安定対策や農地・水・環境保全向上対策が実施に移され、規模の拡大による農地の有効利用や消費者の安全志向への対応が求められる中、杉村氏のように、地域の信頼を得て経営規模を拡大するとともに、品質や地域との連携を重視した経営がますます重要になって来ています。愛知県担い手育成総合支援協議会では、頑張る農業者の応援に努めて参ります。